



2026年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年7月15日

上場会社名 株式会社鉄人化ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2404 URL <http://www.tetsujin.ne.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 根来 拓也
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役 管理本部長 (氏名) 浦野 敏男 (TEL) 03-3793-5117
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年8月期第3四半期の連結業績(2025年9月1日～2026年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第3四半期	7,745	27.4	452	105.4	472	81.2	411	35.9
2025年8月期第3四半期	6,077	14.8	220	244.6	260	—	302	—

(注) 包括利益 2026年8月期第3四半期 439百万円(44.8%) 2025年8月期第3四半期 303百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期第3四半期	30.80	30.62
2025年8月期第3四半期	22.94	22.83

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期第3四半期	5,642	1,186	18.7
2025年8月期	4,503	656	14.3

(参考) 自己資本 2026年8月期第3四半期 1,053百万円 2025年8月期 642百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年8月期	—	0.00	—		
2026年8月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の連結業績予想(2025年9月1日～2026年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,679	20.3	400	89.4	400	51.1	409	22.0	30.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1 社 (社名) 株式会社ヴァンクールプロモーション、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年8月期3Q	13,817,362株	2025年8月期	13,817,362株
② 期末自己株式数	2026年8月期3Q	457,200株	2025年8月期	457,300株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年8月期3Q	13,360,143株	2025年8月期3Q	13,196,441株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は :
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12
(収益認識関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の概況

当第3四半期累計期間の国内経済は、賃上げによる消費マインドの底上げや活発なインバウンド需要、堅調な設備投資に支えられ、緩やかな回復傾向で推移いたしました。一方で、物価高による生活防衛志向や、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の上昇や供給制約が生産活動に影響を及ぼしはじめており、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの主軸であるBtoC事業においては、個人消費の回復を捉えて堅調な需要を維持したものの、テナント賃料の上昇、人手不足に起因する人件費・採用費の増加、原材料や物流コストの高騰といった事業コストの上昇圧力が続いております。

このような環境下において、当社グループは採算性を重視した経営を推進し、収益性の高い事業への選択的投資や日々のオペレーションや管理コストの効率化・バックオフィス部門の生産性向上により利益率の改善に取り組んでおります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高7,745百万円（前年同四半期比27.4%増）、経常利益472百万円（前年同四半期比81.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益411百万円（前年同四半期比35.9%増）となりました。セグメントごとの業績は次のとおりです。

当社グループ（当社及び関係会社）は、当社（株式会社鉄人化ホールディングス）及び連結子会社13社で構成され、カラオケルーム運営事業、飲食事業、美容事業、人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業、メディア・コンテンツ企画事業を主な事業としております。

(カラオケルーム運営事業)

当第3四半期連結累計期間におけるカラオケルーム運営事業の売上高は2,757百万円（前年同四半期比12.4%減）、セグメント利益は406百万円（前年同四半期比2.6%減）となりました。

当事業は、子会社の株式会社鉄人エンタープライズが「カラオケの鉄人」及び「カラオケの鉄人コラボミックス」ブランドで、東京都15店舗、神奈川県9店舗、千葉県1店舗、愛知県1店舗、大阪府1店舗、京都府1店舗、愛媛県1店舗、福岡県1店舗、新潟県1店舗を運営しております。

カラオケ市場では、大手チェーンによる設備更新や新規出店など積極的な取り組みが進んでおります。

当社グループにおきましては、アニメ・ゲーム等のコンテンツとコラボレーションした「カラオケの鉄人コラボミックス」を積極的に展開し、当第3四半期連結累計期間に3店舗を新規出店いたしました。今後も地方都市を中心に出店を推進してまいります。

業績は、年末年始及び歓送迎会シーズン等の繁忙期需要を取り込み、堅調に推移いたしました。一方で、物価上昇に伴う設備営繕費や人件費などの店舗運営コストが増加しております。

なお、コラボミックス店舗につきましては、注目度の高いコンテンツを導入した結果、足元の業績が大幅に好転しております。

比較可能な既存店※26店舗の売上高は前年同期比102.7%となりました。

(飲食事業)

当第3四半期連結累計期間における飲食事業の売上高は1,813百万円（前年同四半期比21.6%増）、セグメント利益は167百万円（前年同四半期比53.6%増）となりました。

当事業は、子会社の株式会社直久が「直久」ブランドのラーメン店舗（直営7店舗、FC3店舗、業務受託1店舗）を運営し、また株式会社鉄人エンタープライズが「赤から」4店舗、「かにざんまい」3店舗、「京都勝牛」、さらに子会社の株式会社鳥竹が焼き鳥専門店「鳥竹」2店舗を運営しております。

当事業においては、外食需要の持ち直しにより堅調に推移した一方、慢性的な人手不足による採用競争の激化や人件費上昇、原材料価格・物流費の高騰が業績面で負担となっております。

新規出店も積極的に推進しており、当第3四半期連結累計期間に、「直久」、「かにざんまい」、「赤から」、「鳥竹」の全てのブランドで出店を実施いたしました。

比較可能な直営・既存店※11店舗の売上高は前年同期比106.9%となりました。

(美容事業)

当第3四半期連結累計期間における美容事業の売上高は1,513百万円（前年同四半期比10.6%増）、セグメント利益は54百万円（前年同四半期比79.5%増）となりました。

本事業は、中京エリアを商圏とする株式会社Rich to（9店舗）と、首都圏エリアを商圏とするビアンカグループ（55店舗）により運営しております。

まつ毛パーマ（ラッシュリフト）を中心としたまつ毛メニューやネイルサービスの需要は安定して推移しており、SNSを活用した集客施策と顧客満足度向上への取り組みにより、リピート率の向上と新規顧客の獲得に努めました。

一方で、テナント更新時の家賃上昇に加え、スタイリストの転職など業界特有の課題は継続しており、業績面で負担となっております。また、投資ボリュームの小ささから新規参入が増加し、地域ごとに競争が激化しております。

当第3四半期連結累計期間には10店舗を新規出店（うち1店舗は都市計画に伴う移転）し、不採算1店舗を閉店いたしました。また、重点戦略であるスタイリストの採用・教育では79名の新卒入社を実施し、技術研修の強化により「Rich to」「Bianca」両ブランドの価値向上を図っております。

比較可能な既存店※48店舗の売上高は前年同期比107.7%となりました。

（人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業）

当第3四半期連結累計期間の売上高は1,597百万円、セグメント利益は196百万円となりました。

当事業は、携帯電話業界を中心に人材派遣及びイベント・キャンペーン支援を行っており、2025年11月より当社グループの新たな事業としてスタートいたしました。

当事業においては、携帯キャリアが実施した販売キャンペーン（特にGWでのイベント）への派遣需要が大幅に増加したことで業績が好調に推移いたしました。

（メディア・コンテンツ企画）

当第3四半期連結累計期間におけるメディア・コンテンツ企画の売上高は40百万円（前年同四半期比9.6%減）、セグメント利益は33百万円（前年同四半期比7.5%減）となりました。

「カラオケの鉄人モバイル」サイトを中心に運営を行っておりますが、フィーチャーフォンからスマートフォンへの乗換えが進み減収・減益となっております。

（その他）

当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は23百万円（前年同四半期比11.4%減）、セグメント損失は0百万円（前年同四半期セグメント損失7百万円）となりました。

ダンス・ヨガ・トレーニング等の利用を目的としたレンタルスペース事業（ミライスタジオ）を首都圏エリア（6拠点9スタジオ）で展開し、積極的に拠点拡大に取り組んでおります。

※ 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比較して1,138百万円増加し、5,642百万円となりました。流動資産は2,683百万円となり929百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金が563百万円、売掛金が354百万円、商品及び製品が16百万円増加したこと等によるものであります。固定資産は2,958百万円となり208百万円増加いたしました。主な要因は、のれんが73百万円、繰延税金資産が71百万円、保険積立金が8百万円、建物及び構築物をはじめとした有形固定資産が147百万円増加し、差入保証金が105百万円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比較して608百万円増加し、4,455百万円となりました。流動負債は2,666百万円となり831百万円増加いたしました。主な要因は、買掛金が243百万円、短期借入金が122百万円、1年内返済予定の長期借入金が38百万円、未払費用が118百万円、未払消費税等が35百万円、未払法人税等が288百万円増加したこと等によるものであります。固定負債は1,789百万円となり223百万円減少いたしました。主な要因は、長期借入金が156百万円、資産除去債務が52百万円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比較して530百万円増加し、1,186百万円となりました。主な要因は、当第3四半期純利益による利益剰余金411百万円及び非支配株主持分が119百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、事業規模の観点からカラオケルーム運営事業への依存度が高い状況にあります。同事業は、忘年会・新年会等の需要が見込まれる第2四半期や、歓送迎会等の需要が増加する第3四半期に売上が偏重する傾向があることから、各四半期連結会計期間の業績が必ずしも通期の業績と連動するものではありません。

また、当社グループは、コロナ禍において同一業種への過度な依存が業績に大きな影響を及ぼしたことを踏まえ、複数事業の運営によるリスク分散を推進しております。この方針のもと、M&Aを含め、収益性が見込まれる事業への積極的な投資を実施しております。しかしながら、投資先事業の収益が想定を下回った場合には、当社グループ全体の業績に影響を及ぼす可能性があります。

当第3四半期連結累計期間においては、主力であるカラオケルーム運営事業において、年末年始及び歓送迎会シーズン等の繁忙期の業績が堅調であったこと、また、新規事業である人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業において、春季キャンペーンによる派遣需要が想定以上に増加したことにより、営業利益及び経常利益につきましては、通期連結業績予想に対する進捗率が100%を超える高水準で推移いたしました。なお、その他の事業においては、概ね計画どおりに推移しております。

各事業の状況は以下のとおりです。

- ・カラオケルーム運営事業

当事業におきましては、次期成長に向け、堅調なアニメ・ゲーム等のコンテンツ企画に対する先行投資として、当期中における新規出店を進めており、これに係るテナント費用や設備費用・人件費等のイニシャルコストの負担増を見込んでおります。また、第4四半期(6月～8月)は、近年の極端な気候変動による悪天候や猛暑等が店舗への客足やお客様の外出機会に影響を及ぼし易い期間であることに加え、電気料等の光熱費の推移についても引き続き注視する必要があることから、現時点ではこれら不確実な外部環境の変動要因を慎重に見極める必要があると判断しております。

なお、足元における既存店の客数及び売上は堅調に推移しており、現時点で急激な業績下振れを示す要因は発生しておりません。

- ・飲食事業

当事業におきましては、外食需要の持ち直しにより売上は堅調に推移したものの、原材料高や光熱費などの事業運営コストが増加したことから、利益は当初計画通りの着地となりました。

当事業におきましても、次期成長に向けた先行投資として当期中における複数の新規出店を進めており、これに係るイニシャルコストの負担増を見込んでおります。また、カラオケルーム運営事業と同様に、夏季の悪天候や猛暑等の気候変動が客数に及ぼす影響を慎重に見極める必要があると判断しております。

なお、足元における既存店の客数及び売上は堅調に推移しており、現時点で急激な業績下振れを示す要因は発生しておりません。

- ・美容事業

当事業におきましては、当期中の計画を上回るペースで新規出店が進捗しており、引き続き積極的な出店を継続するとともに、スタイリストの採用(新卒・中途)及び技術教育の強化を図り、事業収益の拡大に取り組んでいます。

今後の業績見通しにつきましては、複数の新規出店に係るテナント費用や設備費用等のイニシャルコストの負担増を見込んでおります。また、2026年度新卒採用者に対する実践的な技術研修の強化に伴う人件費等の増加及びSNS等を活用した販売促進の強化に係るコストの増加を見込んでおります。

- ・人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業

当事業におきましては、安定的な推移が見込める人材派遣事業により、堅調な売上及び利益を見込んでおります。

- ・メディア・コンテンツ企画事業

当事業におきましては、スマートフォン利用者の減少傾向を背景に、前期と同程度の減収・減益を見込んでおります。

- ・その他事業

小規模ながら安定的な収益を確保しているレンタルスペース事業において、増収・増益を見込んでおります。

以上の状況から、全体として足元の好業績を背景に、次期以降の持続的成長に向けた先行投資(新規出店、人材育成、販売促進強化等)を計画通り推進すること、並びに第4四半期における気候変動等の不確実性を勘案し、現時点における当連結会計年度の業績予想につきましては、2026年1月14日に公表いたしました2026年8月期の通期連結業績予想から変更はありません。

※当該業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により実際の業績はこれと異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	979,168	1,542,747
売掛金	359,532	714,164
商品及び製品	38,782	55,754
原材料及び貯蔵品	61,345	62,170
その他	320,807	314,529
貸倒引当金	△5,600	△5,670
流動資産合計	1,754,036	2,683,697
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	849,561	1,031,563
工具、器具及び備品（純額）	81,303	80,867
その他（純額）	373,004	339,040
有形固定資産合計	1,303,869	1,451,471
無形固定資産		
のれん	64,434	137,998
その他	18,613	16,338
無形固定資産合計	83,048	154,336
投資その他の資産		
差入保証金	1,134,120	1,028,908
その他	232,166	327,173
貸倒引当金	△3,292	△3,292
投資その他の資産合計	1,362,994	1,352,789
固定資産合計	2,749,912	2,958,598
資産合計	4,503,948	5,642,295

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	140,850	384,792
短期借入金	277,800	400,000
1年内返済予定の長期借入金	526,474	564,844
未払費用	540,563	658,723
未払法人税等	51,366	340,183
前受金	12,152	16,658
資産除去債務	6,477	—
賞与引当金	34,716	42,777
ポイント引当金	16,898	16,766
その他	227,919	241,919
流動負債合計	1,835,219	2,666,665
固定負債		
長期借入金	1,508,363	1,351,745
退職給付引当金	27,788	26,990
資産除去債務	386,914	334,478
その他	89,584	76,004
固定負債合計	2,012,651	1,789,217
負債合計	3,847,870	4,455,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	92,741	92,741
資本剰余金	193,170	42,746
利益剰余金	525,519	1,087,421
自己株式	△169,400	△169,363
株主資本合計	642,031	1,053,546
新株予約権	14,046	13,630
非支配株主持分	—	119,236
純資産合計	656,077	1,186,412
負債純資産合計	4,503,948	5,642,295

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
売上高	6,077,535	7,745,719
売上原価	5,140,752	6,518,101
売上総利益	936,782	1,227,618
販売費及び一般管理費	716,505	775,174
営業利益	220,276	452,443
営業外収益		
受取利息	276	1,540
受取保険金	1,735	582
助成金収入	52,903	48,707
為替差益	—	1,821
その他	36,342	18,522
営業外収益合計	91,258	71,174
営業外費用		
支払利息	32,650	39,095
為替差損	518	—
支払手数料	6,611	2,333
その他	10,946	9,501
営業外費用合計	50,727	50,930
経常利益	260,808	472,687
特別利益		
固定資産売却益	31,377	230,044
資産除去債務戻入益	8,050	41,274
新株予約権戻入益	117	374
固定資産権利変換益	82,228	—
移転補償金	267,015	13,878
特別利益合計	388,788	285,571
特別損失		
固定資産除売却損	1,646	11,290
店舗閉鎖損失	2,334	—
減損損失	223,874	21,244
固定資産圧縮損	81,636	—
棚卸資産評価損	10,283	—
特別損失合計	319,774	32,535
税金等調整前四半期純利益	329,822	725,724
法人税等	27,116	286,441
四半期純利益	302,705	439,283
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	27,810
親会社株主に帰属する四半期純利益	302,705	411,472

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
四半期純利益	302,705	439,283
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	582	—
その他の包括利益合計	582	—
四半期包括利益	303,287	439,283
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	303,287	411,472
非支配株主に係る四半期包括利益	—	27,810

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2025年11月28日開催の定時株主総会において、当社の欠損を填補し、早期の財務体質の強化を図るとともに今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、剰余金の処分が決議されました。この結果、第1四半期連結累計期間において、その他資本剰余金が150,428千円減少し、利益剰余金が150,428千円増加しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	メディ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	3,147,799	1,491,031	1,368,248	44,379	6,051,459	26,075	6,077,535	—	6,077,535
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	3,147,799	1,491,031	1,368,248	44,379	6,051,459	26,075	6,077,535	—	6,077,535
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	417,648	108,841	30,111	36,718	593,320	△7,175	586,144	△365,867	220,276

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「レンタルスペース事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△365,867千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△365,867千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「カラオケルーム運営事業」「飲食事業」「美容事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、「カラオケルーム運営事業」177,033千円、「飲食事業」38,869千円、「美容事業」7,971千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食事業」セグメントにおいて、2024年9月30日付で株式会社鳥竹の株式を取得したことに伴い、中間連結会計期間より連結の範囲に含めております。このことにより、のれんが34,127千円発生しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	人材派 遣・イベ ント・キ ャンペー ン支援事 業	メディ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高 外部顧客 への 売上高 セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	2,757,639	1,813,578	1,513,824	1,597,449	40,132	7,722,623	23,095	7,745,719	—	7,745,719
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,757,639	1,813,578	1,513,824	1,597,449	40,132	7,722,623	23,095	7,745,719	—	7,745,719
セグメント 利益又はセ グメント損 失(△)	406,679	167,177	54,044	196,929	33,961	858,792	△569	858,222	△405,779	452,443

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「レンタルスペース事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△405,779千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△405,779千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、株式会社ヴァンクールプロモーションの株式を取得し、子会社となったため、前連結会計年度の末日に比べ、「人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業」のセグメント資産が増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「カラオケルーム運営事業」「美容事業」のセグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、「カラオケルーム運営事業」16,588千円、「美容事業」4,655千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業」セグメントにおいて、2025年10月31日付で株式会社ヴァンクールプロモーションの株式を取得したことに伴い、第1連結会計期間より連結の範囲に含めております。このことにより、のれんが114,297千円発生しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業を行う株式会社ヴァンクールプロモーションを連結範囲に含めたことに伴い、当社グループの事業の管理区分の見直しを行った結果、第1四半期連結会計期間よりこれまで「その他」の区分に含めていた「アニメ等コラボレーション事業」を「カラオケルーム運営事業」へ含め、「人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業」を新たに追加しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
減価償却費	108,555千円	88,629千円
のれんの償却額	27,398千円	40,733千円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、カラオケルーム運営事業を主たる事業としており、一般のカラオケルームでの楽曲・飲食サービス提供の他、アニメ作品等とコラボレーションしたカラオケルーム運営をしております。その他、ラーメン店を主体とした飲食事業、マツモエクステ&ネイルを主体とした美容事業、携帯電話業界を中心に人材派遣及びイベント・キャンペーン支援事業を主体とした人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業、着メロ等の配信を行うメディア・コンテンツ企画事業を事業ドメインとして運営しております。

前第3四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

(単位：千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	店舗販売	2,942,660	48.4%
	E C	205,140	3.4%
飲食事業	店舗販売	1,389,516	22.9%
	卸売	36,637	0.6%
	F C	64,878	1.1%
美容事業	施術サービス	1,281,644	21.1%
	物販	82,762	1.4%
	卸売	3,842	0.1%
メディア・コンテンツ企画事業		44,380	0.7%
その他		26,076	0.4%
顧客との契約から生じる収益		6,077,535	100.0%
その他の収益		—	—%
外部顧客への売上高		6,077,535	100.0%

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「レンタルスペース事業」等を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)

(単位:千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	店舗販売	2,638,617	34.1%
	E C	119,023	1.5%
飲食事業	店舗販売	1,762,638	22.8%
	卸売	5,745	0.1%
	F C	45,195	0.6%
美容事業	施術サービス	1,423,523	18.4%
	物販	85,749	1.1%
	卸売	4,552	0.1%
人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業	イベント事業	1,181,737	15.3%
	人材派遣業	399,629	5.2%
	人材関連その他	16,083	0.2%
メディア・コンテンツ企画事業		40,132	0.5%
その他		23,095	0.3%
顧客との契約から生じる収益		7,745,719	100.0%
その他の収益		—	—%
外部顧客への売上高		7,745,719	100.0%

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「レンタルスペース事業」等を含んでおります。

(注) 2. 第1四半期連結会計期間より、2025年10月31日を取得日として人材派遣・イベント・キャンペーン支援事業を行う株式会社ヴァンクールプロモーションを連結範囲に含めたことに伴い、報告セグメント区分および契約区分方法を変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間については、変更後の区分方法に基づき作成したものを開示しております。